

あたりまえだと思っていたことは、あたりまえではない

代田小・5 石栗 彩羽

わたしは、今までお父さんとお母さんにやってもらってあたりまえだと思っていたことを、今年、高学年になったので、一人でできるようにしていこうと思いました。そこで、せんたく、食事作り、ごはんのはいせん、せんたくものほし、おふるそうじなど、いろいろなことに一人でチャレンジしてみることにしました。

今までわたしは、お母さんたちにいろいろやってもらっているのに、えらそうな態度をとってしまっていました。

今年、五年生になって家庭科を勉強するようになりました。家庭科の授業で家族といっしょにやっていることと、自分一人でやっていることをプリントに書くという時間がありました。書き終えて、自分が書いたものを見ると、家族といっしょにやっていることの方が多かったです。友達プリントは、自分一人でやっていることの方が多かったです。それでわたしは、家族といっしょにやっていることの方が多いのはわただけなのかと不安になり、一人でできることを増やそうと思いました。いつか大人になって一人ぐらしをするようになることを考えると、今やってもらっていることができるようにならないといけないので、がんばろうと思いました。

家に帰ってまず外にほしてあるせんたくものを部屋の中に入れてました。その後にごはんのはいせん、おふるそうじに、おふるをわか

しました。私はこれだけでもつかれました。その時、お母さんとお父さんは仕事でつかれていても、毎日家事をがんばってくれていると気付きました。わたしは心からすごいなと思いました。

食事作りは、時間がなくてできませんでした。けれど、わたしはお母さんのじゃまにならないところで見ていました。すぐくむずかしそうでした。いつか家族に美味しい料理を作ってあげたいと思います。

最初は、やったことのないものばかりだったので、教えてもらいながらやっていました。覚えるのが大変でした。いやだなと思う時もありました。でもその度に、いつものお母さんとお父さんのすがたを思い出してがんばっていました。

二週間くらいずっとがんばってお手伝いしていると、あることに気付きました。それは、家事をやってもらってあたりまえだと思っていたわたしが、お礼を言わなかったり、えらそうにしたりしていても、お母さんとお父さんはいつもわたしにやさしくしてくれていたということです。わたしは何年前、妹たちと遊ぶ時間を作ることをあたりまえだと思われていて、妹たちにお礼を言ってもらえず、いやな思いをしたことがありました。自分も同じことをしてたと気づき、悪かったなと思いました。

次の日の朝、妹がわたしのところに来て、お母さんとお父さんがほめていたよと伝えに来てくれました。妹は昨日の夜、お母さんとお父さんがせんたくものをほしているとき、わたしのことをほめていたのを聞き、教えに来てくれました。わたしはすぐうれしかったです。今までだれもわたしのことをほめてくれなかったので、いやな気持ちでいました。けれど、お手伝いをしてよかったと思いま

した。これからも家族のみんなのためにお手伝いをがんばりたいです。そして、りっぱな大人になり、お父さんとお母さんのようなすてきな親になりたいです。